

江田島に残る歴史的建造物「海友舎」の再生を通じて、地域内外の交流拠点に。

海友舎でのさまざまな活動から、2025年に行った3つの活動を紹介します。

01

海友舎所蔵史料調査

中間報告会を開催



明治末に海軍兵学校で働く兵士や下士官用の娯楽兼福利施設として建てられた海友舎は、江田島の地域に唯一残る海軍兵学校関係施設で、空襲さえも免れてきた歴史的に貴重な、築110年の木造建造物です。そうした経緯から、海友舎には戦前から戦後にかけての海軍関係の貴重な資料が数多く残っています。2024年から継続して、全国各地から集まった歴史学・社会学の研究者たちの協力のもと、定期的な資料整理と、周辺地域の歴史についての聞き取り調査を行っています。2025年3月には中間報告会として、地元の方々や関係者を招いて、これまでの研究成果を発表し、交流会を開催しました。

◀ 海友舎史料調査の研究者チームと、手伝ってくれた学生たち



◀ 資料を整理して目録を作成中



◀ 中間報告会の様子

02

歴史と観光の探究

東洋大学国際観光学部 須賀ゼミ巡検を受け入れ

2022年から継続して、東洋大学須賀ゼミの巡検を受け入れています。須賀ゼミは、江田島市と広島市を対象に、歴史的史跡・景観を生かした観光・地域振興のあり方について探求することを目的とし、毎年の夏に地域調査を実施し、現地の状況をふまえた観光施策の研究に取り組んでいます。2025年8月にも江田島を訪れた学生たちに、海友舎の見学と活動紹介をして交流を深めました。



03

平屋建棟建築120周年

桜松館と海友舎、呉と江田島を巡るイベント



▲ 海友舎平屋建棟の前で120年を祝って

海友舎の建築調査を始めて約10年、研究者と学生の協力によって、海友舎の平屋建棟が呉の初代桜松館を移築したものと判明しました。2025年は初代桜松館が竣工してから120年になることから、呉の現桜松館（二代目）周辺と、江田島海友舎を巡るイベントを5月に開催しました。記念講演は、広島工業大学の光井周平先生に「海友舎と私ー初代桜松館移築の発見秘話」と題して、呉と江田島の歴史的な繋がりと、移築されたこの建物が持つ価値や重要性について解説していただきました。



▲ 呉の二代目桜松館や入船山記念館を解説付きで散策し、その後、海友舎で記念講演を聴く参加者の様子



▲ 平屋建棟建築120年記念イベントのフライヤー

海友舎をきっかけに、ぐるぐる、こつこつ、わくわく！

ぐるぐる海友舎プロジェクトでは、建物の保存活用といった普段の活動と共に、こうした歴史調査、建築調査も継続して行っています。海友舎という歴史的建造物を軸に、研究者や学生たちと協力しながら、地域住民やさまざまな人をぐるぐると巻き込みながら活動を広げていきます。海友舎をきっかけにして、江田島の歴史や文化財の保存、観光振興や地域探究に興味を持ってもらい、ここを訪れたそれぞれの人のまちづくりの活動に繋げていっていただけたらと思っています。